

平成 27 年度数値目標の達成状況等に対する総合戦略推進会議委員からの主な意見等

□：会議委員

■：会議事務局（市）

□ P T A 関係の会議で青森に出張した際、「大曲の花火」は映像を流すだけでも評判・評価が高いので、花火関連事業についてはブランディング化や活性化につなげてもらいたい。

■市では、「大曲の花火」を核として「毎月花火が上がるまち」といった P R や「花火産業構想」の実現に向け取組を進めており、その牽引役として当会議の会長からもご尽力いただいている。

□（整理No.92）移動販売は南外地域外小友地区 1 か所のみでの実施か。評判が良いと聞くがそれ以外の地区でも需要があるのではないか。

■現在は、外小友地区の中の 2 ルートを各ルート週 1 回ずつまわっている。このほか、民間スーパーも独自に移動販売を実施しているが、市として実施しているのはここだけ。民間で行っている地域もあるため、市で介入する必要性が高いのかという問題点がある。南外地域では移動販売が実施されていなかったため、民間事業者に声掛けしたが実施の予定がないとの回答だったことから、市で支援を行い実施したもの。市役所各支所では、地域からの要望があれば相談を受ける体制となっている。

□農業関係については目標達成された項目が多く良かった。新規就農者については、市の東部・西部各研修施設も一定の役割を果たしているものと考えている。しかし、新規就農者以上に離農するケースが多い。また、法人の増加により個人農家の数が減少すると思う。地域の農業をどうやって支えるのかと考えた場合、法人はもちろん集落営農、個人農家も少なからず必要である。

□ 6 次産業化等さまざまな場面で道の駅（整理No.53）が話題に上るが、個人農家が自分の作った農産物を売る場がないので、出しやすい環境づくり、気軽な販売の場として利用できるようにしてもらいたい。

■地域からの要望もあることから、できる限り多くの方から出品できるようにしたいと考えているので、個々の駅の現状に配慮し検討していきたい。

□総合戦略の数値目標の達成状況と評価では、○×の評価に加え、達成できなかった項目については、どのような活動をして目標まで届かなかったのかというような過程の検証が必要ではないか。評価する際、数値のみならずその他の方法を加える検討もしていただきたい。

□（整理No.37）販路開拓に関する相談について、資料記載のとおり相談はなかったが、ビジネスマッチングに関する相談は多く成果もあるので、詳細なデータについては市企業連絡

協議会事務局に問い合わせてもらえれば協力する。

□（整理No.1）新規の雇用について、年度の数値目標は達成されているものの、非正規・派遣の雇用者数と比較するとまだ少ないと思われる。また、（整理No.68、69）結婚関係について、労働組合の立場で担当の大仙市・仙北市・美郷町エリアのほか、横手・湯沢との連携により組合員の婚活の場の提供を作ろうという話し合いをしているところ。市でも街コンなどを行っているようだが、企業や労働組合を含む各種団体へのアプローチについても積極的に行っていくべきと思う。

■JAでも結婚サポーターの配置など結婚支援に協力いただけるとのことなので、市としても連携できるようにしたい。

□（整理No.59）スポーツ合宿について、早稲田大学の応援団は2年に1度、大仙市に合宿にきている。成人式だけではなく小・中学生、高校生にもスポーツ合宿や応援団の演技を見せる機会をつくることで、外に向けた広い視点を持つことができるようになるのではないかと。また、各大学等に対し合宿誘致の営業が全国各地から来るようだが、秋田の営業は弱いとのこと。リピートの理由を探る部分に検討の余地があるのではないかと。

■本市の宿泊施設は運営管理も含め1か所で完結できる機能を持っている。また、スポーツ合宿による経済波及効果は非常に高く、市の担当課でも首都圏に対して営業を行っているが大きな財源を投ずることなく誘致が図られている。合宿が行われることで、その地域の子どもたちにも少なからず良い影響が出ている。

□全体的に見て平成27年度については、多くの項目で目標を達成できたことは良かった点である。（整理No.23）秋田林業大学の研修生について、全国的に注目されているところだが、27・28年度の研修生は新卒が多いのか。また、修了後の受け皿はどうなっているのか。

■秋田林業大学は学校教育法上の大学ではなく、県主催の「秋田県林業トップランナー養成研修」という2年間の研修を受ける事業で高卒が受験資格となる。27年度の全体の研修生数は18人で、うち15人は新卒。本市の3名は全て高校の新卒。28年度は本市から7人で、高校新卒が6人、大学新卒が1人となっている。27年度開始の事業であり修了者はまだいない。現状では林業で自立していくことは大変だと思うが、意欲をもって研修を受けている方々であることから、修了後の受け皿について県や市でも応援していかなければならないと考える。

□（整理No.68、69）街コンについて、参加者の男女比率では女性が少なく苦勞している。結婚サポーターとして活動しているが、大仙市は婚活に力を入れていると全県的に評価されている。結婚支援について親身になってくれるサポーターが多くいれば成婚につながると思い、サポーターの募集活動をしているがなり手がいない。

□（整理No.92）移動販売について、自分の住む地域は高齢化しているなかで店舗が2軒しか

なく何とか対応策を講じて買い物できるようにしなければならないと考えている。地域の行政懇談会でも要請しようとしていたところである。また、（整理No.93）地域の活性化のため「がんばる集落応援事業」の補助金を活用させてもらった。地域でまとまって活動する、特に子どもたちも行事に参加してもらうには若い人の力が必要である。今年度の活動は好評だったことから行事を継続したいと考えているので、来年度以降も「がんばる集落応援事業」について継続をお願いする。

■移動販売については、購入する側の立場では「実際に商品を見て選びたい」という要望もあり、乗り合いタクシーやバスを利用し近隣のデパートやスーパーへ出向くというやり方もあるので、地域の実情にあった方法を検討していきたい。地域の高齢者・若者・子どもが交流できるコミュニティ支援については、住民と市がともに協力しながら、継続していきたいようにしたい。

□（整理No.20）ファーマーズマーケット（整備主体：JA）について、今年度は準備段階であるが、平成29年6月のオープンに向けて進めている。コンセプトとしては、旧大曲仙北地方卸売市場の跡地を地域のにぎわいにつなげるための開設である。地域の活性化・雇用の創出・観光ルート拠点の1つにしたいと考えている。

□民間でも、こういった事業計画のためPDCAサイクルをまわすための資料を作る機会がある。事業担当部の立場になると、評価の仕方について○と×しかないためつらい部分もある。例えば、努力したとしても達成できなかったため×となった事業もあれば、特に主だった活動なく流れで目標が達成でき○となった事業もあると思われる。単純に○×の評価のみならず、良い流れの途中の×なのか過程の評価についてもお願いする。

■評価に関しては、県などでは達成率に基づくA B C D評価を導入している。○×では極端な評価になってしまうので、次年度以降は評価方法を検討したい。

□（整理No.35）若者の雇用促進について、今年の3月卒業した高校3年生の県内就職希望率は76.5%と高い。今年度卒業の高校3年生が9月16日から選考開始となっているが、今年も地元就職希望者が73%となっている。全県の中でも高い地域で地元志向が多く、若者が生き生きと活躍できる地域であり企業からの募集も多くいただいているところである。最終年度目標のハードルは高いものの是非地元で自分を生かしたい、地元定着したいという希望へ市でも地域でも支援していければと思う。

□数値目標を達成したから良かったとか、できなかったからだめだとかというわけではなく、いかに○の項目を上げていくか、逆に行き詰まっている部分の解消法をどうやって取り組んでいくのかということが本来求められているところである。行政だけではできない部分も多くあると思うので、民間のさまざまな組織をいろいろな形で利用しながら目標の達成に努めていただきたい。